

住民主体の井戸管理活動の実態と課題 —ガーナ共和国での現地調査を通じて—

堤田 成政

キーワード： 安全な飲料水，地域共有資源の持続的利用，WATSAN，コミュニティー発展，現地調査

1. 研究の背景と目的

世界人口 64 億人のうち，約 17%にあたる 11 億人ものが安全な飲料水にアクセスできない状況にある。最も深刻なのはサブサハラで，その割合は全体の 46%にのぼる。サブサハラ農村部において，コミュニティーの共有資源である深井戸（Borehole 以下，BH）が主要な給水源となっているが，その管理が十分に行われなことから発生する BH の故障，およびその後の放棄が問題となっている。本論文ではガーナ共和国（以下，ガーナ）において BH 管理を対象とした現地聞き取り調査から BH 管理実態の把握とその課題を明らかにすることを目的とする。また，BH 管理を通じたコミュニティー発展に向けた提言を行う。

2. ガーナ農村部の水供給に関する概要

ガーナ農村部では比較的安価に安定した水質・水量を得られるという理由で生活用水には BH が主に使用される。1994 年の法改正において，以前の中央集権型の水政策から，コミュニティーへ給水施設の所有と管理の権限を移す Community Ownership and Management（以下，COM）という概念を導入した。COM により，住民が主体となる BH 管理が求められている。BH 建設時にコミュニティー内に住民による BH 管理ボランティア組織（Water and Sanitation Committee 以下，WATSAN）が設立され，故障時の修理代とする BH 使用料徴収など，いくつかの管理業務を担うこととなった。

3. 現地調査

図-1 に示す 5 地区の 17 コミュニティーにおいて 40 基の BH の稼働状況の確認と WATSAN，地域住民，NGO，水行政末端機関である郡役所水衛生課（District Water and Sanitation Team 以下，DWST）からの聞き取り調査を行った。

4. 結果

調査した 40 基の BH のうち，10 基が故障し放棄されているなど，必ずしも十分な管理がなされているわけではないことがわかった。その要因としては，WATSAN へのトレーニング不足，BH 内部の点検といった大掛かりなメンテナンスの欠如，住民との使用料徴収に関する合意形成の不備，自然水源の経済的優位性，DWST のサポート不足などが挙げられる。一方，Ga West 州の A コミュニティーでは月に 1 回，Area Mechanic と呼ばれる修理工による大掛かりな定期メンテナンスを実施することにより 10 年前に建設した BH の 4 度の故障を乗り越えるなど，WATSAN とコミュニティーが一体となって BH を管理していることがわかった。



図-1 現地調査を実施した 5 地区

5. 結論

定期メンテナンスを行うためには修理費以外の余分なコストとなるメンテナンス代と修理技術力，BH 管理能力を必要とするため，WATSAN は住民，DWST からのサポート，Area Mechanic との協力関係がなければ実施することができない。このように BH を最大限持続的に利用するため，また BH 管理を通じた自律的なコミュニティー発展を実現するため，定期メンテナンスが一つの主要な成功要因となることがわかった。